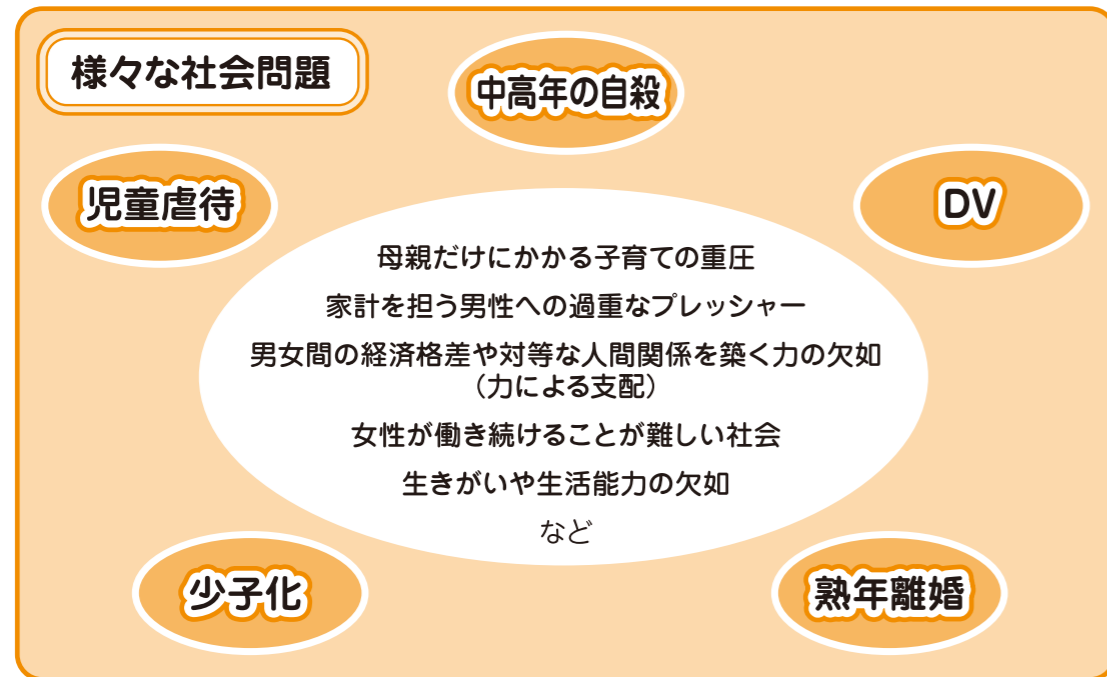


“固定的性別役割分担意識”や“社会的性別”の偏見を解消しましょう!

「女だから、男だから」ということだけで、本来は自由に選択できるはずの生き方を制約していませんか。個人の能力や資質とは関係なく、「男は仕事」「女は家庭(家事・育児)」などと性別だけで役割を押し付けたり、向き不向きを決めつけたりする考え方を「固定的性別役割分担意識」といいます。

この「固定的性別役割分担意識」のほかにも、社会通念や慣習により作り上げられた「社会的性別」(「男性像」や「女性像」)の偏見が、職場や学校、家庭、地域の様々な場面に残っており、個人の能力を発揮する場や機会が制限される要因になることもあります。

また、下図のような様々な社会問題は、別々の問題のように見えますが、この根底には「女はこうあるべき」「男はこうあるべき」という「固定的性別役割分担意識」や「社会的性別」の偏見が根深く残っていることにより、周囲からの期待に応えないといけないという重圧が原因となり、引き起こされていると言われています。



例えば、内閣府自殺対策白書(平成25年版)によると、働き盛りの中高年の自殺者は7割以上が男性であり、自殺の原因と動機は経済問題や生活問題が多くなっています。知らず知らずのうちに、「男性だから」「稼がなくてはならない、出世しなければならぬ、愚痴や弱音を吐いてはいけないなど」という「固定的性別役割分担意識」や「社会的性別」の偏見にとらわれ、それがプレッシャーとなっている可能性もあるのではないのでしょうか。



男女共同参画社会の実現に向けて

男女共同参画社会を推進していくためには、男女がお互いに尊重し、対等なパートナーとしてあらゆる分野に参画できるように、私たちを取り巻く従来からの習慣を積極的に見直し、この「固定的性別役割分担意識」や「社会的性別」の偏見を解消していくことが必要です。

そうすれば、女性だけでなく男性にとっても、より暮らしやすい社会になるのではないのでしょうか。



【行政の取り組み】

- ・人権尊重の視点に立った男女共同参画の推進
(男女平等に向けた意識啓発、男女共同参画にかかる各種講座等の開催や情報提供)
- ・男女間におけるあらゆる暴力の根絶
(配偶者等からの暴力防止にかかる啓発活動や相談・自立支援)
- ・様々な分野における施策・方針決定過程等への女性の参画の拡充
(審議会等への女性委員の積極的な登用、女性の経営参画促進と女性リーダーの養成) など

【市民の取り組み】

- ・男女共同参画の視点に立った生涯学習の推進
(男女共同参画にかかる講座や催し等への積極的な参加)
- ・男女共同参画社会の視点に立った制度や慣行の見直し、意識の改革
(「固定的性別役割分担意識」や「社会的性別」の偏見の解消)
- ・地域活動における男女共同参画の推進
(環境活動や防災活動等への女性の参画の促進、自治会役員への女性の登用) など

【企業の取り組み】

- ・男女が共に能力を發揮できる就業環境の整備
(セクシュアル・ハラスメント等の防止、育児・介護休業制度等が取得しやすい職場環境の整備)
- ・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進
(長時間労働や残業の抑制、フレックスタイム、職場風土の改革) など